

# White Board

## ◇2003年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」 および「奨励賞」候補者の募集

地球化学研究協会より、「三宅賞」および「奨励賞」候補者の推薦を依頼します。

下記の要領で応募して下さい。応募用紙などは学会事務局に送付してあります。

### 1. 三宅賞

対 象：地球化学に顕著な業績をおさめた科学者  
表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件(1名)

### 2. 奨励賞

対 象：推薦締切日に35才以下で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

助成内容：1件10万円、毎年1件(1名)

### 3. 応募方法

所定の用紙に略歴、研究業績、推薦理由などを記入し、下記のあて先へ送付して下さい。

### 4. 締切日

2003年8月31日

### 5. 応募先

地球化学研究協会

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217

電話 03-3330-2455 (FAX兼用)

## ◇国立天文台野辺山 特別公開のお知らせ

国立天文台野辺山では、天文知識の普及と観測所業務の広報とを目的として、

下記の要領で特別公開を開催しますのでご案内申し上げます。

### 1. 日時

2003年8月23日(土) 午前9時30分～午後4時  
(午後3時30分に入場を終了させていただきます。)

### 2. 場所

国立天文台野辺山

### 3. 展示・見学

通常の見学コースのほか、45メートル電波望遠鏡・ミリ波干渉計・電波ヘリオグラフの各観測室、観

測データを処理する計算機などを見学できます。宇宙・太陽からやってくる電波をとらえる観測装置の仕組みや、最新の観測結果を展示します。工作体験コーナーや質問コーナーなどもあります。

## 4. 講演会

「第二の地球探しに向かって」

午前11時～午前12時 田村元秀(国立天文台)

「第二の地球形成の現場へ」

午後2時～午後3時

北村良実(宇宙科学研究所)・斎藤正雄(国立天文台)

## 5. 交通

鉄道：JR小海線野辺山駅下車 徒歩30分(駅から無料シャトルバス運行)

自動車：東京・名古屋方面から中央自動車道 長坂インターから清里高原有料道路を経て約30分。または、中央自動車道 須玉インターから

国道141号線を白田・佐久方面へ約50分。群馬方面から：上信越自動車道佐久インターから国道141号線を白田・清里方面へ約80分。

## 6. ご注意

入場無料・雨天決行

スリッパを各自ご持参ください。

天文台内では食事の提供・販売はいたしませんので、ご了承ください。

天文台入口駐車場は大型バス・障害者専用となります。その他の自動車の方は、野辺山スキー場の駐車場をご利用ください。スキー場から観測所まで無料シャトルバスを運行します。

特別公開当日は、会場準備の都合で午前9時30分から午前4時のみの開場となります。

問い合わせ先

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 国立天文台野辺山

電話：0267-98-4300(代表)

## ◇日本宇宙生物科学会 2003年 公開講演会

宇宙に生命をさぐり 生命に宇宙をみる  
地球圏外の生命の探査と異なる原理の生命の理解

平成15年11月29日(土) 13時～17時

科学技術館 6階 第一会議室

東京都千代田区北の丸公園

地下鉄東西線「竹橋」1B出口より徒歩7分

地下鉄東西線 半蔵門線 都営新宿線「九段下」

2出口より徒歩7分

入場無料 中学・高校生・大学生・社会人

生命の起源に関わる興味ある事実は、地球上の様々な生物が、共通の生命のしくみをもち共通の祖先を持つらしいことである。生物の進化のしくみや、進化の歴史を駆動してきた力とそのはたらきには、地球上の生命にとどまらない普遍性があるかもしれない。その一方で、地球上の生命の性格と原理は惑星としての地球の特徴に結びついた特殊なものであるかもしれない。地球型生命の原理が宇宙に普遍的な原理であるか否かを知るのに、地球圏外の生命探査は重要であり、これからの宇宙(太陽系)探査計画を牽引するのは圏外生命探査であると期待されている。

生命体を構成する化学種の選択が恣意的であるようにみえるのはなぜか、地球型生命が生命の唯一の解でないとしたらなぜ生命のはじまりは複数回なかったのか、異なる原理の生命が始まったとしてなぜその生命が永続できなかつたのか、異なる原理の生命を殲滅する敵対性を生命は持っているのか、普遍的な生命の原理をあきらかにするのに地球圏外宇宙での生命探査はどのように貢献できるか、地上での極限的な環境に棲息する生物などに異なる原理で構成される生物がないか、異なる原理の生命の理解はどのようにして可能となるかなどについて話題が提供される。

宇宙的視野から生命の起原を考える：大島泰郎  
 深生物圏に探る極限生物：長沼 毅  
 太陽系外の地球型惑星と生命：井田 茂  
 地球外知性体との出会い：寿岳 潤  
 総合司会・討論：河崎行繁・小池惇平  
 問い合わせ先

日本宇宙生物科学会

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所 気付

電話：042-759-8230 FAX：042-759-8449

e-mail: JSBSS@surc.isas.ac.jp

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsbss/index.html>

## ◇山梨県立科学館 プラネタリウム番組「火星大接近—その生命と水」

2003年夏 火星が地球に大接近。

火星生命の可能性は？火星の海はどこへいったのか？

人々の熱いまなざしを通して、ここに繰り広げる太陽系第4惑星の驚くべき世界。

長い間人類を魅了してきた火星。今年は特に火星が注目を浴びています。火星の大接近、あいつぐ火星探査、次々に発表される新しい事実・・・「火星に生物はいると思う？」という子ども達へのインタビューから、火星研究の第一人者、倉本圭氏による火星最前線の話まで。ドーム空間で繰り広げる火星の世界をどうぞお楽しみください。

監修出演：倉本圭(北海道大学理学研究科)

脚本：高橋真理子(山梨県立科学館)

演出：奥木晋(五藤光学研究所)

著作制作：山梨県立科学館

期間：2003年4月12日(土)～8月31日(日)

場所：山梨県立科学館 スペースシアター

投影時刻：土日祝日 13:50～, 15:50～ 平日 15:50～

\*7月19日からは10:00～のみとなります

観覧料：大人 800円 高校生 480円

小中学生 320円(入館料とセットです)

URL：<http://www.kagakukan.pref.yamanashi.jp>